

# 授業評価アンケート結果報告書

関西学院大学大学院司法研究科  
(関西学院大学ロースクール)

2012 年度秋学期

関西学院大学大学院司法研究科

自己評価・FD委員会

2013 年 6 月 1 日



## 関西学院大学ロースクール

### 2012年度秋学期授業評価アンケート結果報告

#### はじめに

本授業評価アンケート報告書は、2012年度秋学期に開講したすべての授業科目（一部の科目を除く）についての学生の評価、および担当教員の自己評価であり、2004年度から毎学期実施しているものである。

関西学院大学では、すでに早くから教育水準の向上を目指した総合教育研究室を設け、この研究室を中心として学生による授業評価の実施や学生の授業等に関する意識調査などを継続的に行っており、それらの調査の一部は報告書というかたちで公表されている。さらに、2002年度からは、ファカルティ・ディベロップメント（いわゆるFD）を全学的に推進していくための学内組織を設立し、ネット上で学生による授業評価をリンクするなどの試みを実現している。

本ロースクール（関西学院大学大学院司法研究科法務専攻）は、学内におけるこれらの試みをさらに一歩前進させたと言っても過言ではないだろう。その内容は開学にむけた「設立趣意書」のなかにおいて、次のように示されている。「授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等の実施に関する対応」をすることを公表し、そのために「a.授業内容に関しては、春学期、秋学期の授業終了時に受講生による授業評価を実施する。授業評価は、次のとおり実施する。①全開講科目で実施する、②評価の結果は内部で公表する、③評価結果に基づく、教育方法に関する研修会を毎学期終了時に実施する、④評価で特に優れた教員については、これを表彰する、⑤評価で芳しい結果が示されなかった教員については、研究科長が面談し、改善を要請し、具体的方針を確認する。b.授業内容および授業方法の改善を図るための委員会を設置し、年間を通じて授業方法を検討し提言を行う。c.授業内容や授業方法の改善のために、学内外の専門家、経験者を招き、研究会、講習会等を実施する。」などの具体策を構想し、提案している。

このような設立の趣意に基づいて、2012年度秋学期の最終授業時に実施したアンケート結果の概要およびその分析等が、本報告書の主要な内容である。

（なお、個別授業に対する個別評価を含めたこの結果は、関西学院大学ロースクールの学生およびロースクール授業科目担当者を対象にウェブ上で公開する。）

# 目 次

1. 授業評価の目的	1
2. 調査実施方法及び期間	1
3. 学生による授業評価アンケート	3
4. 授業担当教員による授業自己評価アンケート	6
5. まとめと今後の課題	9

## 【付 録】

2012年度秋学期開講授業科目一覧

### ＜アンケートフォーム＞

1. 授業に関するアンケート（アンケート用紙）
2. ロースクール教員の担当科目自己評価表
3. 授業評価結果に対するコメント用紙

### ＜アンケート全体集計結果＞＜アンケート科目群別集計結果＞

1. 授業評価アンケート全体集計結果（全体集計）
2. 授業評価アンケート全体集計結果（評価点比較）
3. 授業評価アンケート科目群別集計結果

### ＜アンケート授業別集計結果（サンプル）＞

1. 授業評価アンケート授業別集計結果
2. 授業評価アンケート授業別集計結果（評価点比較）
3. ロースクール教員の担当科目自己評価表
4. 授業評価結果に対するコメント

## 1. 授業評価の目的

授業評価の目的は、本アンケートを通じて本ロースクール学生自身の勉学面での実態および授業に対する認識・反応などを分析することで、教育の質向上に反映させることのできる基礎資料を提供してロースクール教育の改善を図ること、また、ロースクール固有の教学上の諸課題を把握し、解明することにある。

殊に、学生による授業評価にあわせて、講義担当者による自身の講義に関する自己評価を実施していることは、本ロースクールにおける授業評価の特徴である。各教員は、定期試験実施直前に授業を振り返ってアンケートを記入する。さらに、2005年度秋学期からは学生のアンケート結果を踏まえたコメントの提出を講義担当者に求めることにした。以上の試みは学内で初めて行われているものであり、学生の授業評価と相互に比較検討することで、より良い授業のためのヒントが得られていると考える。

この調査の企画、調査票の作成、および集計結果についての分析と本報告書の執筆については、本研究科教授会のもとに設置された「司法研究科自己評価・FD委員会」のメンバーを中心に行われた。ロースクールは2004年4月に日本で初めてスタートした新しい専門職大学院であるため、アンケート項目、帳票等、試行錯誤の繰り返しであった。こうした取り組みのなかで、3年目の春学期より、担当授業科目の値と所属する科目群の平均値の比較が容易にできるよう授業科目群別集計結果の帳票を新たに作成した。また授業別の集計結果についてはレーダーチャートを取り入れ、見やすさの工夫を行った。さらには4年目の春学期からは、アンケートの設問項目の継続性を勘案しながら、より現実に即した設問項目に追加変更をした。5年目の春学期からは集計結果の帳票を変更し、学生自身の授業に臨む態度をもとに各設問の評価点を比較できるように工夫した。7年目の春学期は、アンケート自由記述欄に「予習・復習に関する意見を書いてください」を加えた。また8年目の春学期は、予習・復習に関する意見から学習上の成果を問う内容に変更した。9年目の春学期は、アンケートの設問項目を見直し、「シラバスで求められた到達目標に達しましたか」という項目を設定した。今後も検討を重ね、課題があれば修正を加えていきたい。

なお、調査の実施方法については、以下の「調査実施方法及び期間」に示した。今回の調査でも、ほとんどの授業科目および学生からの回答が得られ、アンケート回答回収率（対履修者数）は88.8%となった。

アンケート実施にあたって協力をしていただいた各教員には感謝申し上げたい。また、実際に回答を寄せていただいた学生諸君、アンケートの実施と回収を担当した司法研究科事務室と教務補佐の方々、さらに調査票の整理などの一番煩雑な作業を担当した司法研究科事務室にも感謝の意を表したい。

## 2. 調査実施方法及び期間

司法研究科における授業評価は、2004年度春学期に初めて実施し、今回は18回目の実

施である。

今回行った授業評価は、第1回目から同様、主としてアンケート用紙による学生および教員からの回答という方法で行った。アンケートの内容は、それぞれ、本報告書の中に添付されているので、それらを参照されたい。

#### **(1)実施対象授業科目について**

実施対象授業科目（コマ）は、2012年度秋学期に開講された57科目（120コマ）中、「クリニックA」「クリニックB」および履修者数が1名のクラス（行政法入門、税法演習、アメリカ公法、特別演習2）、調査実施時の出席者数が1名のクラス（法律英語）を除く50科目（113コマ）であった。

#### **(2)回答者、回答率等について**

回答者は、本学ロースクールの正規履修者もしくは他研究科よりの科目履修者でアンケート実施日の出席者（受講生）に限定された。これらのアンケート調査実施の対象となった受講者数は、延べ1,257人で、回答者数は、延べ1,115人であった。したがって、回答率は88.8%となった。

#### **(3)実施期間について**

アンケートは、原則として2012年度秋学期開講の各科目の最終授業日にあたる2013年1月7日（月）から11日（金）に実施した。

#### **(4)アンケートの実施**

アンケートの実施は、各授業開始時の10分間に教務補佐等がアンケート用紙の回答方法について簡単な説明を行ったうえで用紙を配付し、受講者が回答した。回収も教務補佐等が行った。なお、授業担当者はアンケート実施中に同席せず、アンケート終了後に入室し、授業を開始した。

#### **(5)集計および公表について**

本報告書は、それぞれの項目の集計を中心に行った。また2008年度から、受講者の予習・復習の度合いと授業の難易度を評価軸として、他の設問についての評価点を分析する方法も取り入れている。

#### **(6)記述評価項目について**

アンケート用紙の記述評価項目および、a)「この授業で良かったところを具体的に書いてください。」、b)「この授業をよりよくするための提案があれば書いてください。」、c)「この授業を受けてあなたが得た学習上の成果はどのようなものでしたか。具体的に書いてください。」については公表の対象とせず、授業改善のための参考資料として、筆跡が分からないようすべてタイプし、記入者を特定できない形にして授業担当者本人に直接届け

られている。なお 2010 年度春学期より、自由記述についての教員間での共有を行うことになった。

ただし、2008 年度秋学期より、記述評価項目に記載された内容のうち誹謗中傷や人格攻撃であると判断できる記述については、事前に本委員会において検討し、教員本人には伝達しないことにした。なお、この措置については事前に学生諸君に通知しており、且つほとんどの学生はこの趣旨を理解してくれていたようで、誹謗中傷・個人攻撃の類の記述は少なくなっている。

### **3. 学生による授業評価アンケート**

#### **(1)はじめに**

今年度から設問内容を一部変更した。その内容については、初学期のまとめで書いたので、ここでは繰り返さない。

以下では、全体集計に関して、アンケート評価値の経年推移を概観したうえで、上記の相関関係分析の結果を検証し、さらに科目別集計結果について特徴的な点を指摘したい。

#### **(2)回答数**

回答 1,115 (昨年度 1,543) で、その内訳は、学年別では 175 (328)・2 年生 383 (578)・3 年生 527 (609)・他学部等 4 (7)、既修・未修別では既修 480 (512)・未修 595 (1004)、出身学部別では法学部出身 843 (1,173)・その他出身 225 (341)であった。回答総数は昨年より相当減少しているが、その理由は主として在席学生数の減少による。

#### **(3)設問内容**

具体的内容は後掲の通りだが、質問を群別に分けると、質問群①教員の授業方法に関するもの(設問 1～5)、質問群②学生の授業への満足度・達成度に関するもの(設問 6・11)、質問群③学生の授業に対する態度に関するもの(設問 7～10)となる。そのほかに、単独ではあるが、総括的な質問の 1 種として、④予習量への感じ方に関するもの(設問 12)がある。

#### **(4)アンケート集計結果**

##### **(i)全体集計**

##### **① アンケート全体評価値の経年推移について**

アンケート全体評価値の経年推移であるが、法科大学院設立当初の 2004 年度から 2008 年度までは、毎年春学期において、質問群①教員の授業方法に関するもの(設問 1～6)の一部のポイントが 3.9、質問群②学生の授業への満足度・達成度に関するもの(設問 7・8)のポイントがいずれもほぼ 3.9にとどまるものの(なお、そのほかの質問群①②の評価値はいずれも 4.0を上回っていた)、秋学期になると質問群①②のどの項目もポイントが 4.0を上回るようになるということの繰り返しであった。

それが、2009 年度～11 年度は、毎年春学期から質問群①②のどの項目もポイントが 4.0を上回るようになり、秋学期には平均してさらに 0.1ポイント程度上がるということ

が繰り返される状態となった。そして、各設問毎のポイントを見ても、毎年ほぼ同じ全体評価値が繰り返される状態となっている。

今年度秋学期も、これまでとほぼ同様の結果となっているが、教員の授業方法についての評価が4.2から4.4となっており、極めて高いと評価できる。この間の授業方法の改善努力がそれなりの効果を挙げていることのあらわれと言えるだろう。もっとも、教員の授業方法に対する高い評価と比べて、今年度からの設問11（シラバスで求められた到達目標達成度）の評価の平均値が3.6（春学期は3.4）とさほど高くないことに注意すべきである。また、質問群③学生の授業に対する態度に関するもの（設問7～10、以前の9～11）については、設問7（以前の9）（わからないところを質問したか）が3.8、設問8（以前の10）（予習度）が3.8となっており、受講生の授業の対する事前準備や授業中の質問などで不足している者がいることがうかがわれる。また、今年度の新設した設問10（授業外での学生相互の討論）は、3.3（春学期は3.1）であって、春学期よりはポイントが上がったとはいえ、この点の改善が今後の課題の一つであろう。

今後は質問群③のポイントをどのように上げられるかが、大きな課題であり、予習・復習の度合いと質問群①②の各項目とのポイントとの相関関係が認められていることからしても、授業の効果をより高めるには、学生の授業に対する態度の改善をどう図るかが、焦点であると言ってもよいようである。

## ② 設問7および8と他の設問の評価との相関関係について

前述したように、今学期は、設問6（授業による法的知識や法的思考力の増大）及び設問11（シラバスで示された到達目標達成度）と他の設問の評価との相関関係について、グラフを作成して分析を加えてみた。予想通りと言えばその通りであるが、いずれについても高い相関関係が示されている。

要するに、教員が学生の理解度を確認しながらわかりやすく説明するとともに、履修者の質問に的確に答えるかどうか、学生の授業への満足度・達成度とほぼイコールの関係になっていると言ってもよいようである。もちろんこのような指標は、授業のあるべき姿を全て表しているとは限らない（例えば履修者が受け身で授業に臨んでいてもこの傾向はあらわれる）が、教員がまずもって努力・工夫を要する重要な事柄であることは否定できないであろう。

## (ii) 科目別集計結果

後掲のように、法律基本科目（1年）から特別演習までの7種について集計がそれぞれされている。ここでは、昨年度の春・秋に比べて今年度春がどうか、という点を中心に、いくつかの特徴的な点を取り上げたい。

第1に、1年生の法律基本科目は、昨年度春・秋と比べてほぼ同様である。少し目立つのは、設問1（シラバス通りに進化したか）が3.7と低いこと、設問5（以前の6）（教員は質問に的確に答えていたか）が、昨年度春3.9、秋が3.6であったのが、今年の春4.2、秋が4.1にアップしたことである。また、設問6（7）（法的知識や法的思考



力の増大)は昨年度春4.1、秋が3.7であったのが今年の春3.9、秋が3.8となっている。予習・復習の程度については大きな変化はない。

2年生の法律基本科目は、昨年度春・秋と比べてポイントが上がっている。具体的には、設問3(教員は十分に授業の準備をしていたか)は、昨年度春4.2、秋が4.1であったのが今年春4.3、秋が4.2にアップしていることである。

なお、3年生の法律基本科目は、昨年度はポイントが高かったが、今回はやや下がっている。例えば、設問6(7)(法的知識や法的思考力の増大)は昨年度春・秋ともに4.5と極めて高かったが、今年度春4.1、秋が4.3となっている。なお、設問7(9)(授業で質問しましたか)をみると、昨年度春4.1、秋が4.2と比較的ポイントが高かったのに対して、今年度春4.0、秋が4.1と下がっており、このことが設問6(7)の評価にも関連していると思われる。

法律基本科目については、従来は1年生のポイントがかなり低く、2年生・3年生と上がるに連れてポイントが上がっていく傾向にあったのが、今回はいずれの学年もそれほど差のない結果となっている。

第2に、基礎法学・隣接科目は、一昨年度までポイントがあまり高くなかったが、昨年度からポイントがかなり上がり、この傾向は今年も続いている。具体的には、設問4(双方向・多方向授業の工夫)は一昨年度春3.7、秋が3.6であったのが、昨年度春4.3、秋が3.8となり、今年度春は、4.2とアップしている。設問6(7)(法的知識や法的思考力の増大)は一昨年度春3.5、秋が3.7であったのが、昨年度春に3.9、秋に4.0となり、今年度春3.8、秋も3.8となっている。設問4以外の教員の努力に対する質問群①の評価は4.0以上であり、特に設問3(教員は事前に十分準備してきたか)について、4.5と高い評価がされていることが注目される。

第3に、このほか、実務基礎科目や展開先端科目はほとんど変わらず、特別演習科目は若干ポイント減があるものの満足度は高いまま維持されている。

以上により、以前は科目群によってポイントにかなり差があった(特に1年生の法律基本科目や基礎法学・隣接科目のポイントが低かった)のが、特別演習のポイントがかなり高いのを別として、科目群によるポイントの差があまりない状況になったと言えよう。

### (iii)自由記述欄

この欄は、a)この授業で良かったところ、b)この授業をよりよくするための提案、c)あなたが得た学習上の成果、の3つの項目別に学生から自由に記述してもらうものである。2年前から、この欄については、本委員会による事前の点検を行い、授業の内容・方法とは全く関係ないものや、担当教員に対し人格攻撃等を行うもの、その他適切な表現を欠くものは、本委員会の判断で事前に削除し、その他のアンケート結果のみを、担当教員本人を含む教員全員に配布する処理をしている(学生にはこの欄の記述は配付していない)。今回も、このような処理をおこなったが、削除されたものはごくわずかであった。

この授業をよりよくするための提案の欄には、レジメの作成、板書の仕方、話し方、次回へ

の宿題の指示の仕方、授業進度等についての、学生の意見・要望がかかっている。その多くは真剣に授業の改善を求める学生からの貴重な提案であり、各教員がそれぞれ、真摯に受け止め授業内容の改善に活かしてゆくべきである。

なお、「あなたが得た学習上の成果」の欄は、従来の「予習・復習に関する意見」の欄にかえて秋学期から新たに設けたものであるが、記述している者が少なく、また記述内容も「良く理解できました」というような一般的なものであって、余り有益なコメントがない。次回以後は、別の項目に変えた方が良いのではなかろうか。

#### **4. 授業担当教員による授業自己評価アンケート**

##### **(1) はじめに**

「学生の評価に対するコメント」（以下、「コメント」と略称する）および「今後の改善点」（以下、「改善点」と略称する）は、授業担当教員が、期末授業アンケートにおいて示された学生の授業に関する要望・不満および問題提起に答えることにより、今後の授業改善を図るというフィードバック機能を有している。今年度の概要は、つぎのとおりである。

##### **(2) コメント・改善点の概要**

###### **(i) 1年次配当**

「基礎演習Ⅱ」については、①事前の課題提供が不十分で楽勝科目と思われていることへの反省、②授業の初めに受講生との間で授業方針（お互い授業に求めるものは何か）について十分に話し合う必要あるとの指摘があった。③授業準備が不十分な学生が目立つようになってきた（報告の当日に来ない学生がいる）との指摘は、単なる近時の学生気質では済まされない（専門職大学院としての存続に関わる）深刻な問題として受け止める必要がある。同様に、受講生に授業への興味を持ってもらえるよう工夫したい旨のコメントをどう受け止めたらよいか（そこまでしないと、学生は真剣に勉強しなくなったのか）。

「法律基本科目」については、①予習・復習の設問項目のポイントが低いのは非常に問題であり（小テストや定期試験の結果と相関関係があると思われる）、知識の定着化が不十分な現状（授業に追われて？学修の基本となる自学自習に時間がとれない）を打破する方法を暗中模索せざるを得ない教員の嘆きを切実に受け止める必要がある。②教員の意識とは異なる話し方に対する改善要望を受けての戸惑い、③学生の授業への不満や消化不良に対し、重点的な授業展開となるよう改変するとのコメント（教員に対する学生の信頼度の低下に起因すると思われる、限られた時間の中で授業で取り上げるべき論点および判例の取捨選択に対する教員側の悩みが、その背景にあるものと思われる）、③受講生の理解度等を判断しながらできるだけ分かりやすい授業を進めたことから、講義の進行度が遅くなり、結果としてレジュメと講義の内容とが対応していないという授業評価につながったとのコメント、④抽象的な内容を十分に理解してもらうために設例を設けて説明をすることが授業の進行度を遅らせること、その結果、授業でやり残したことや簡単に済ませたところは

学生の自学自習に委ねざるを得ないことへの理解を求めるコメントがあった。改善点としては、レジュメを練り直し、講義によりマッチした内容にすること、2単位の授業で可能な内容に取り上げるべき項目を精査し絞る必要がある、ことが挙げられている。

「基礎法学・隣接科目」について、この科目群に対する学生の受講態度の改善は、担当教員だけの努力では達成できないので、司法研究科として、この科目群の意義を学生に徹底してほしいとの要望が寄せられた。

## (ii) 2年次担当

「法律基本科目」については、①授業で取り扱う範囲に対する学生からの不満に対しては、各教員による担当科目ごとの十分な検討を踏まえ、自学自習に任せる部分との兼ね合いを常に意識し明確にしたうえで、授業を進めてゆく必要がある。ただ、当該科目の基本的なところはマスターしている（不十分なら自学自習で補う）ことが期待される2年次の授業において、1年次と同じレベルの基礎的な知識の確認に多くの時間を割くよう求める受講生が徐々に増えてきていることをどう評価すべきか、根本的なカリキュラムのあり方に影響を与える問題でもあるだけに、一部学生の要望に安易に迎合するのではなく、かつ担当教員だけの問題とはせず、カリキュラム委員会等において十分な議論を経る必要があるように思われる。②一回の授業で取り上げる項目を絞ったことが、学生の理解度・満足度の向上に結びついたとのコメントがなされている。個別の改善要望（たとえば、板書や声の大きさなど）に対しては、各教員がかなり細かく対応している様子が見える。改善点としては、学力向上のためには受講生とのコミュニケーションをより深める必要があるとの指摘があった。③予習の有無・程度について、受講生自身の評価と教員のそれとが乖離している、復習的・基礎的な質問にもかかわらず、しっかりと解答できない受講生の存在等の指摘があった。④演習ではあるが、もう少し基礎知識の確認に重点を置くべきかとも考える、⑤今年度も、昨年度と同様、同じ授業をしているはずなのにクラスによって正反対の評価が生じることへの戸惑い、その分析に悩んでいること、改善策として、もう少し学生の個性に着目しながら授業を進めてゆきたいとのコメントがあった。「その他」において、期末試験の結果を見ると、目の覚める答案がなかった、とくに応用問題はできが悪く、司法試験はこれで大丈夫か心配である、また、体調不良で欠席する学生がかなりいたのが今年の特徴である、との感想が寄せられた。

「実務基礎科目」については、①教員の授業努力とは別に学生の予習・復習が十分でないこと、授業の狙いを明確に伝えることが授業の満足度に（前者はマイナス、後者はプラスに）影響している、との指摘があり、改善点としては、十分な授業準備も含め、履修者が陥りやすい事柄にもう少し重点を置くようにすること、絶えず学生の問題意識を喚起し、授業に緊張感を持たせる工夫をすること、予習と復習を徹底させ、基礎的知識の獲得と論理的思考を定着させること、などが挙げられている。また、②昨年度より授業評価が低下した理由として、教材や授業内容が難しいと感じる学生が増えたことによるものと分析し

た上で、改善点として、来年度は教材の内容を減らすこと、レベルを下げることを検討したいとのコメントがあった。

「展開・先端科目」については、①やはり復習や学生同士での議論の設問項目のポイントが低いのが気かりとの指摘、②関学の現状を考えると、学生による授業評価のポイントが低い原因が、科目の取っ付き難さのほか、学生側の資質の問題もあるとの指摘があり、改善点としては、学生の積極的な関与を確保するために、10分程度の小テストの実施の提案があった。③ユニークなところでは、復習していない生徒のため、復習課題を考える、というのがあった。また、④学生の理解度を確認するため起案を課したことが能力の向上に役立った、⑤とくに重要と思われる点をしっかりと教え、それについては双方向講義により学生と確認しながら進行するように努める、⑥双方向授業には頭を悩ませており、その改善策として、次回の授業までに簡単な課題を与えておき、それに関する質問事項を織り交ぜて展開する授業形式を考えている、⑦具体的事例に基づき学生に考えさせる授業としたい、⑧講義と配付資料にすべて答えがあるにもかかわらず、テストが難しいと感じている学生がいることに驚いた、⑨復習が「どちらともいえない」が7割というのは、当該科目の軽視である、⑩展開・先端科目にもかかわらず、基礎から教えてほしいとの要望に対し、LSの教育のあり方についてのズレの問題であり、基礎力は（前提となる授業等を通じて）自分で身に付けてほしい、等のコメントがあった。さらに、⑪授業中に小テストをするのは時間的に辛いので、小テスト用の時間帯が全科目共通で（例えば、1科目の小テストは20分以下、1科目のテスト頻度は月2回以下というような条件で）設置されることが望まれるというものもあった。また、教材のあり方についての問題提起として、⑫教員が授業レジュメを配布するケースが多い中、担当教員が作成した教科書があるにもかかわらず、レジュメの配布を希望する学生に対し、レジュメは自分で作りなさいとのコメントは、分かりやすい授業、効率的な授業等を追求するあまり、かえって学生の受け身を助長し、自助努力・学習力を奪う結果になっていないかについて改めて反省を促すものといえよう。

### (iii) 3年次配当

「特別演習」については、①受講生の受講態度はすごくまじめで、事前の準備もよく行われているとのコメントが寄せられている。シラバス等を見た上で、自ら積極的に参加していることが高評価につながっているように思われる。②基礎的理論の掘り下げと文章力の向上に力を入れたことが学生の高評価につながった成功例も紹介されている。改善点としては、毎年、取り上げる判例が最新・最適となるよう、その見直し作業の重要性が指摘されている。

「総合演習科目」については、①1年次の授業評価とは異なり、予習・復習の設問項目のポイントが高く、学生による授業満足度も高いのは、受講生数の適切さ及び司法試験の受験を意識した結果であろうとの分析がなされている。また、②授業からどれだけのもの

を獲得するかは、教員の提供する授業の内容もさることながら、学生の事前・事後の準備状況に左右される面が多いのではないかと指摘がなされている。③例年のことながら、クラスによって評価にばらつきがあること、教員2人制に対して賛否両論があること、等のコメントが寄せられている。改善点としては、ペアの教員がそれぞれの専門を活かした議論（絡み合う授業）をする必要、質問しやすい雰囲気づくりの大切さ、問題の分量の緩和、授業での説明時間の比重を増やすなどの対策を挙げている。他に、④論理的思考を積み重ねること、それを早くやることを身につけさせたい、⑤2年生の演習科目との関係を考えた問題を構成したいとのコメントがあった。

「実務基礎科目」については、授業内でより多くの事項についてじっくりと時間をかけて説明できるよう、授業内で伝える内容を精査してゆきたいとのコメントがあった。

### **(3) まとめ**

以上を通して明らかになったことは、学生の授業に対する熱意・積極性が薄れてきている中で（代表的な例として、予習及び復習という基本的なことができない、授業中に寝ている、欠席や遅刻など）、われわれ教員にできることは、授業内容・方法の改善・工夫の一環として、いかにして学生のやる気を出させる努力と工夫をすることができるかに掛かっているように思われる。とくに、2年次以上の学生については、当該年次に配当されている授業の前提となる基礎知識が十分でなく、また、すべての学年において授業で取り上げる項目を絞ることが学生の理解度・満足度につながる現実も明らかになった（その内容が各年次における平均的な到達目標から見てどうか、司法試験に合格するレベルに至り得るものかどうか、すなわち、理解度・満足度と到達度の関係については、別個に分析・検討する必要がある）ように思われる。このように、これまではそれほど問題にならなかった授業で扱う項目の絞り込みや分量の緩和を改善点に挙げる教員が目立ってきたことが何を意味するか、単に授業の改善・工夫だけでは超えられない壁（学生のやる気と絶対的な基礎力の低下）が顕在化してきたように思われる。昨年度と同様、教員側からは、授業の内容面の充実よりは、方法論について改善の必要を訴えるコメントが多かった。

また、コメントを書く学生が減ったとの指摘については、これまでのアンケートのやり方を踏襲しながらも、コメントを書く十分な時間の確保に向けての改善がなされる予定である。

## **5. まとめと今後の課題**

2012年秋学期における授業アンケート調査の結果は、上記の「3. 学生による授業評価アンケート」および「4. 授業担当教員による授業自己評価アンケート」からも明らかのように、各設問項目および設問項目間の相関関係いずれにおいても、大きな変化は見られない。大きな変化が見られないことが授業評価アンケートを実施することの意義を低めるものでは決してないが、来年度から、これまで各学期末に行ってきた授業評価アンケ

ートを各年度に一回とすることになったこともあり、ここでは特徴的な傾向を指摘することで、今後の課題に繋げていくことにしたい。

現在指摘できる特徴的な傾向として、つぎの2点を挙げるができる。第一に、(設問1から5に關係する) 授業方法に関する評価が高くなってきていることである。これはわかりやすい授業を心がけるといふ教員の一貫した姿勢を表しているものといえる。第二に、(設問7から10に關係する) 予習・復習、質問、学生同士の討論など学生の授業・学修に対する自主性・積極性に係わるポイントは相対的に低いことである。

その結果として、次のような課題が浮かび上がってくる。まず、よりわかりやすい授業を心がけ、基本的な概念や制度の理解の徹底をめざすことから、授業の進行度が遅くなり、また授業で取り上げるべき項目が少なくなることで、(設問11にも關係する) 到達目標のポイントを押し下げているおそれがある。そして、学修において理解を深め、認識を高めるためには、教える側の能動的な姿勢だけではなく、学生側の自主性・積極性が不可欠であり、2つは両輪の關係に立つといえるが、本ロースクールではこの關係が必ずしもうまく成り立っていないように考えられる。部分的ではあれ、緊張感の欠如した学生も見当たるようになったのもその表れといふことができよう。また、クラス間での理解度の落差や学力の相対的な低下という現象も指摘される状況下において、たとえば緩やかな形で理解度別クラスを設け、それぞれのクラスで、理解度に応じて説明の仕方を変えたり、レジュメを工夫するなど、よりきめ細やかな対応を検討する必要があるだろう。そして、繰り返しになるが、学生の積極性・自主性をいかに引き出すかも同時に考えていかなければならないであろう。3年次における総合演習等では、学生の自主性・積極性が比較的高いとの評価もあり、そこにはロースクールにおける最終年度という意識や司法試験がより身近に感じられるようになるといったことのほかにも、授業の進め方や討論のあり方もあげられるかもしれない。教える側としては、学生の顔を見ながら理解を高める授業を心がけることのほかに、学生の自主性・積極性が高いといわれる総合演習等における教育実践からあらためて学ぶ必要もあると思われる。

なお、前述のように、学期末の授業評価アンケートが年1回の実施に変わることもあり、いわゆる中間授業アンケートのもつ意味合いがこれまでより高くなることも考えられる。中間アンケートは、授業の初期の段階で記述方法で、学生から授業に関する感想、要望を聞き出すものであるが、その意見等を当該授業に直ちに反映させることができるというメリットがある。そのメリットをより生かすために、アトランダムに意見・要望を聞くだけでなく、教える側が聞いてみたい項目を意識的に挙げることも検討課題となるであろう。

関西学院大学大学院司法研究科自己評価・FD委員会

川崎 英明 (委員長)

亀井 尚也

曾和 俊文

西尾 幸夫

堤 龍弥





## <2012年度秋学期開講授業科目一覽>



2012年度秋学期開講科目

科目名称	クラス	担当者	曜日時限	履修者数				
				合計	1年	2年	3年	聴講・その他
行政法入門		荏原 明則	金 2	1	0	0	1	0
民法Ⅲ(債権総論・債権担保)	1	松井 宏興	火 3	18	13	4	1	0
民法Ⅲ(債権総論・債権担保)	2	松井 宏興	火 4	19	11	7	1	0
商法入門	1	西尾 幸夫	火 1	16	13	3	0	0
商法入門	2	西尾 幸夫	火 2	15	11	3	1	0
民事訴訟法	1	堤 龍弥	月 1	16	13	3	0	0
民事訴訟法	2	堤 龍弥	月 2	15	11	4	0	0
刑法Ⅱ(刑法総論・刑法各論)	1	荒川 雅行	火 2	15	13	2	0	0
刑法Ⅱ(刑法総論・刑法各論)	2	豊田 兼彦	木 1	15	11	4	0	0
刑事訴訟法	1	川崎 英明	木 1	15	13	2	0	0
刑事訴訟法	2	川崎 英明	木 2	16	11	4	1	0
行政法演習	1	曾和 俊文	木 2	18	0	14	4	0
行政法演習	2	荏原 明則	水 2	9	0	7	2	0
行政法演習	3	曾和 俊文	木 4	18	0	10	8	0
行政法演習	4	荏原 明則	木 2	14	0	9	5	0
民法演習Ⅱ(債権)	1	神戸 秀彦	火 5	10	0	9	1	0
民法演習Ⅱ(債権)	2	神戸 秀彦	木 5	13	0	9	4	0
民法演習Ⅱ(債権)	3	松井 宏興	水 2	8	0	6	2	0
民法演習Ⅱ(債権)	4	安井 宏	月 2	13	0	10	3	0
民法演習Ⅱ(債権)	5	田上 富信	金 4	11	0	6	5	0
会社法演習	1	西尾 幸夫	金 2	9	0	8	1	0
会社法演習	2	西尾 幸夫	金 3	8	0	4	4	0
会社法演習	3	吉本 健一	金 4	10	0	8	2	0
会社法演習	4	吉本 健一	金 5	10	0	4	6	0
会社法演習	5	野田 輝久	木 3	11	0	7	4	0
会社法演習	6	野田 輝久	木 4	12	0	9	3	0
民事訴訟法演習	1	堤 龍弥	月 4	19	0	9	10	0
民事訴訟法演習	2	堤 龍弥	月 5	18	0	13	5	0
民事訴訟法演習	3	永井 博史	金 3	17	0	10	7	0
民事訴訟法演習	4	永井 博史	金 4	12	0	8	4	0
刑事訴訟法演習	1	川崎 英明	火 2	9	0	6	3	0
刑事訴訟法演習	2	川崎 英明	火 3	10	0	6	4	0
刑事訴訟法演習	3	川崎 英明	水 2	6	0	5	1	0
刑事訴訟法演習	4	京 明	月 3	10	0	8	2	0
刑事訴訟法演習	5	京 明	月 4	10	0	8	2	0
刑事訴訟法演習	6	京 明	火 4	11	0	7	4	0
民事法総合演習Ⅱ(金銭紛争の処理)	1	山田 到史子 小山 章松	水 1	4	0	0	4	0
民事法総合演習Ⅱ(金銭紛争の処理)	2	山田 到史子 塩川 茂	金 1	10	0	0	10	0
民事法総合演習Ⅱ(金銭紛争の処理)	3	山田 到史子 塩川 茂	金 2	8	0	0	8	0
民事法総合演習Ⅱ(金銭紛争の処理)	4	安井 宏 村上 博一	木 4	15	0	0	14	1
民事訴訟法総合演習		村上 博一	木 5	12	0	0	12	0
刑法総合演習	1	荒川 雅行	月 2	5	0	0	5	0
刑法総合演習	2	荒川 雅行	月 3	9	0	0	9	0
刑法総合演習	3	豊田 兼彦	金 1	16	0	0	16	0
刑法総合演習	4	豊田 兼彦	金 2	17	0	0	16	1
刑事法総合演習	1	財前 昌和	火 4	21	0	0	21	0
刑事法総合演習	2	財前 昌和	火 5	15	0	0	14	1
民事ローヤリングⅡ	1	池田 直樹	火 2	8	0	7	1	0
民事ローヤリングⅡ	2	亀井 尚也	月 2	6	0	3	3	0
民事ローヤリングⅡ	3	細川 敏子	金 2	8	0	6	2	0
民事裁判実務Ⅰ(要件事実及び民事訴訟手続の基礎)	4	池田 直樹	水 1	9	0	8	1	0
民事裁判実務Ⅰ(要件事実及び民事訴訟手続の基礎)	5	亀井 尚也	月 5	9	0	7	2	0
民事裁判実務Ⅰ(要件事実及び民事訴訟手続の基礎)	6	塩川 茂	水 1	9	0	7	2	0
民事裁判実務Ⅰ(要件事実及び民事訴訟手続の基礎)	7	塩川 茂	水 2	9	0	7	2	0
民事裁判実務Ⅰ(要件事実及び民事訴訟手続の基礎)	8	伊元 啓	火 5	9	0	4	5	0
民事裁判実務Ⅰ(要件事実及び民事訴訟手続の基礎)	9	伊元 啓	金 4	6	0	2	4	0
民事裁判実務Ⅱ(争点整理・立証と保全・執行の基礎)	1	池田 直樹	水 2	2	0	0	2	0
民事裁判実務Ⅱ(争点整理・立証と保全・執行の基礎)	2	亀井 尚也	月 4	4	0	0	4	0
民事裁判実務Ⅱ(争点整理・立証と保全・執行の基礎)	3	菊元 成典	金 5	2	0	0	2	0
刑事裁判実務Ⅰ(捜査と公判の交錯)	1	三上 潤	火 4	9	0	7	2	0
刑事裁判実務Ⅰ(捜査と公判の交錯)	2	巽 昌章	火 1	10	0	4	6	0
刑事裁判実務Ⅰ(捜査と公判の交錯)	3	巽 昌章	火 2	10	0	5	5	0
刑事裁判実務Ⅰ(捜査と公判の交錯)	4	長部 研太郎	火 5	10	0	9	1	0
刑事裁判実務Ⅰ(捜査と公判の交錯)	5	長部 研太郎	金 4	6	0	4	2	0
刑事裁判実務Ⅰ(捜査と公判の交錯)	6	長部 研太郎	金 5	11	0	10	1	0
刑事裁判実務Ⅱ(証拠法と事実認定)	1	三上 潤	火 2	17	0	0	17	0
刑事裁判実務Ⅱ(証拠法と事実認定)	2	財前 昌和	月 4	20	0	0	20	0
刑事裁判実務Ⅱ(証拠法と事実認定)	3	財前 昌和	月 5	19	0	0	19	0
クリニックA	3	細川 敏子	金 4	4	0	4	0	0
クリニックA	4	石川 寛俊	金 4	4	0	4	0	0
英米法各論		丸田 隆	水 5	6	4	0	2	0
法哲学		服部 高宏	木 3	7	3	1	3	0
紛争解決の歴史		川村 康 守屋 浩光	月 3	7	1	0	5	1
経営学		古川 靖洋	金 4	8	2	2	4	0
簿記論		東 龍平	木 3	13	8	3	2	0
キリスト教と人権		栗林 輝夫	月 3	26	9	4	13	0
労働法Ⅰ(個別労働関係法)		豊川 義明	水 3	13	0	7	5	1
労働法演習		木村 一成 河村 学	水 2	27	0	0	27	0
経済法		久保 成史	金 4	16	0	5	11	0
経済法演習		藤井 司	火 3	4	0	0	4	0
税法演習		安原 徹	木 4	1	0	0	1	0
民事執行・保全法		内山 衛次	水 3	22	0	4	17	1
倒産処理法Ⅱ(倒産処理)		栗田 隆	火 5	11	0	3	8	0
倒産処理法演習		稲田 正毅	金 4	7	0	0	7	0
金融商品取引法		石田 眞得	月 4	4	0	0	4	0
知的財産権法Ⅱ(著作権)		木村 圭二郎	火 5	10	0	3	7	0
知的財産権法演習Ⅱ(著作権)		木村 圭二郎	火 4	6	0	0	6	0
経済犯罪		荒川 雅行	火 5	28	0	3	25	0
公法実務Ⅰ(裁判実務)		関戸 一考 甲斐 みなみ 上 将倫 八木 正雄	金 3	4	0	0	4	0
公法実務Ⅱ(行政実務)	3	津田 和之	金 3	8	0	0	8	0
国際私法		中野 俊一郎	火 1	6	0	3	3	0

## 2012年度秋学期開講科目

科目名称	クラス	担当者	曜日時限		履修者数				
					合計	1年	2年	3年	聴講・その他
国際民事手続法		中野 俊一郎	月	2	6	0	2	4	0
国際取引法		茂木 鉄平	木	1	9	0	2	7	0
法律英語		ジェイ クラパーキ	月	3	2	0	0	2	0
アメリカ公法(英語)		ジェイ クラパーキ	月	5	1	0	0	1	0
現代人権論		茂木 鉄平 関戸 一考 須藤 隆二 太田 健義	木	2	7	3	0	4	0
司法制度論		仁木 恒夫	木	3	4	0	0	4	0
社会保障法		前田 雅子 阪田 健夫 小久保 哲郎	木	2	4	1	2	1	0
生命倫理と法		服部 高宏	金	3	20	0	0	20	0
医事関係訴訟		石川 寛俊	水	2	4	0	0	4	0
少年法		前野 育三	木	1	29	0	3	26	0
環境法演習		池田 直樹	月	2	4	0	0	4	0
ジェンダーと法		宮地 光子 乗井 弥生 雪田 樹理 有村 とく子	金	3	35	0	0	35	0
基礎演習Ⅱ	1	荒川 雅行	月	3	4	4	0	0	0
基礎演習Ⅱ	2	神戸 秀彦	火	1	2	2	0	0	0
基礎演習Ⅱ	3	京 明	水	2	4	4	0	0	0
基礎演習Ⅱ	4	丸田 隆	金	4	4	4	0	0	0
基礎演習Ⅱ	5	安井 宏	水	3	4	4	0	0	0
基礎演習Ⅱ	6	山田 到史子	木	3	4	4	0	0	0
特別演習	2	荏原 明則	木	4	1	0	0	1	0
特別演習	6	曾和 俊文	月	3	6	0	0	6	0
特別演習	8	豊田 兼彦	水	2	15	0	0	15	0
特別演習	9	永田 秀樹	金	4	12	0	0	12	0
特別演習	15	村上 博一	金	1	2	0	0	2	0
公法総合演習	1	永田 秀樹 曾和 俊文	金	2	12	0	0	12	0
公法総合演習	2	永田 秀樹 曾和 俊文	金	2	12	0	0	12	0
公法総合演習	3	永田 秀樹 曾和 俊文	金	4	12	0	0	12	0
公法総合演習	4	永田 秀樹 曾和 俊文	金	4	12	0	0	12	0
公法総合演習	5	荏原 明則 柳井 健一	木	4	6	0	0	6	0
公法総合演習	6	荏原 明則 柳井 健一	木	4	8	0	0	8	0

<アンケートフォーム>

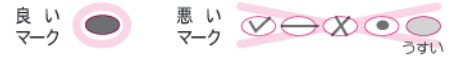


# 授業に関するアンケート

このアンケートは、より充実した授業にするための資料とするものです。  
この調査結果が、あなたの成績に影響することはありません。率直に、かつ責任ある回答をしてください。  
回答は、該当する選択肢の数字を塗りつぶしてください。

### ■記入の注意

- ① HBの鉛筆でマークしてください。
- ② 訂正はきれいに消し、消しくずを残さないでください。



■実施学期:

■授業科目名:

クラス

■授業担当者名:

■曜日・時限:

曜

限

## \*あなた自身のことについて

① 学年

- ① 1年    ② 2年    ③ 3年

② 既修者・未修者

- ① 既修者    ② 未修者

③ 出身学部

- ① 法学部 (法律学専攻)    ② その他

## (1) 教員の授業内容と方法について

回答選択肢 5:強く思う 4:そう思う 3:どちらとも言えない 2:そう思わない 1:全くそう思わない

Q1. 授業内容は、シラバスどおりに進行しましたか。

5	4	3	2	1
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q2. 教員は、学生の理解度を確認しながら授業を進める工夫をしていましたか。

5	4	3	2	1
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q3. 教員は、十分に準備をして授業に臨んでいましたか。

5	4	3	2	1
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q4. 教員は、双方向、多方向授業の工夫をしていましたか。

5	4	3	2	1
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q5. 教員は、履修者の質問に的確に答えていましたか。

5	4	3	2	1
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q6. あなたは、この授業によって法的知識や法的思考力(分析力や批判力)が増大しましたか。

5	4	3	2	1
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

## (2) 学生自身の授業に臨む態度と到達度について

Q7. あなたは、この授業でわからないところがあれば質問をしましたか。

5	4	3	2	1
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q8. あなたは、この授業を受けるに当たって十分に予習をしましたか。

5	4	3	2	1
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q9. あなたは、この授業を受けるに当たって十分に復習をしましたか。

5	4	3	2	1
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q10. 授業以外に学生同士で予・復習の討議をしましたか。

5	4	3	2	1
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q11. あなたは、シラバスで求められた到達目標に達しましたか。

5	4	3	2	1
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

## (3) 授業レベルについて

回答選択肢 5:多すぎる 4:少し多い 3:適度 2:どちらかと言えば楽だった 1:楽だった

Q12. 授業で求められる予習の量はどう感じましたか。

5	4	3	2	1
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

## (4) 追加設問(担当教員の指示があればこたえてください)

回答選択肢 5: 4: 3: 2: 1:

Q13.

5	4	3	2	1
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

裏面につづきます

(5) 記述評価項目(この項目の回答は筆跡がわからないよう全てタイプ打ちされます)

a) この授業で良かったところを具体的に書いてください。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

b) この授業をよりよくするための提案があれば書いてください。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

c) この授業を受けてあなたが得た学習上の成果はどのようなものでしたか。具体的に書いてください。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

ご協力ありがとうございました



# ロースクール教員の担当科目自己評価表

教員氏名：

担当科目名：

これは、ロースクール教員が2012年度秋学期に担当したご自身の科目について、ふりかえってその評価を行うものです。  
 (1) (2) (3)については該当する番号欄に○印を、(4)については自由にご記入ください。  
 なお、この自己評価は、学生による授業評価とあわせてロースクールの教員と学生を対象に公表します。

設問内容		強く そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そう 思わない	全くそう 思わない
		5	4	3	2	1
<b>(1) 担当した授業について</b>						
設問1	授業を、シラバスで示された主題や目的に十分に沿っておこなったと思いますか。					
設問2	学生の授業理解度を確認しながら授業を進める工夫をしたと思いますか。					
設問3	授業には、十分に準備をして臨んだと思いますか。					
設問4	双方向、多方向授業の工夫をしたと思いますか。					
設問5	授業では、わかりやすい説明をしたと思いますか。					
設問6	履修者の質問には、的確に応えたと思いますか。					
設問7	授業によって、履修者の法的知識や法的思考力（分析力や批判力）が増大したと思いますか。					
設問8	授業は、履修者にとって満足できるものであったと思いますか。					
<b>(2) 履修者自身の授業に臨む態度について</b>						
設問9	履修者は、授業でわからないところがあれば質問をしていたと思いますか。					
設問10	履修者は、授業を受けるに当たって十分に予習をしていたと思いますか。					
設問11	履修者は、授業を受けるに当たって十分に復習をしていたと思いますか。					
<b>(3) 授業レベル・規模について</b>						
設問12	授業で求める予習の量を履修者がどう感じていたと思いますか。	多すぎる	少し多い	適度	どちらかと言え ば楽だった	楽だった
設問13	履修者にとって、1クラスあたりの履修者数は適切であったと思いますか。	多い	やや多い	適切	やや少ない	少ない
<b>(4) 記述評価項目</b>						
a) 授業で最も力を入れたことは何ですか。具体的にお書きください。						
b) 授業を担当するにあたって、今後、改善ないし工夫した方がよいと考えている点があればお書きください。						
c) 授業に関して、ほかに気づいたところがあればお書きください。						

## 2012年度秋学期 授業評価結果に対するコメント

教員氏名：

担当科目名：

### 1. 学生の評価に対するコメント

--

### 2. 今後の改善点などについて

--

### 3. その他

--

<アンケート全体集計結果>

<アンケート科目群別集計結果>



### 授業に関するアンケート全体集計結果

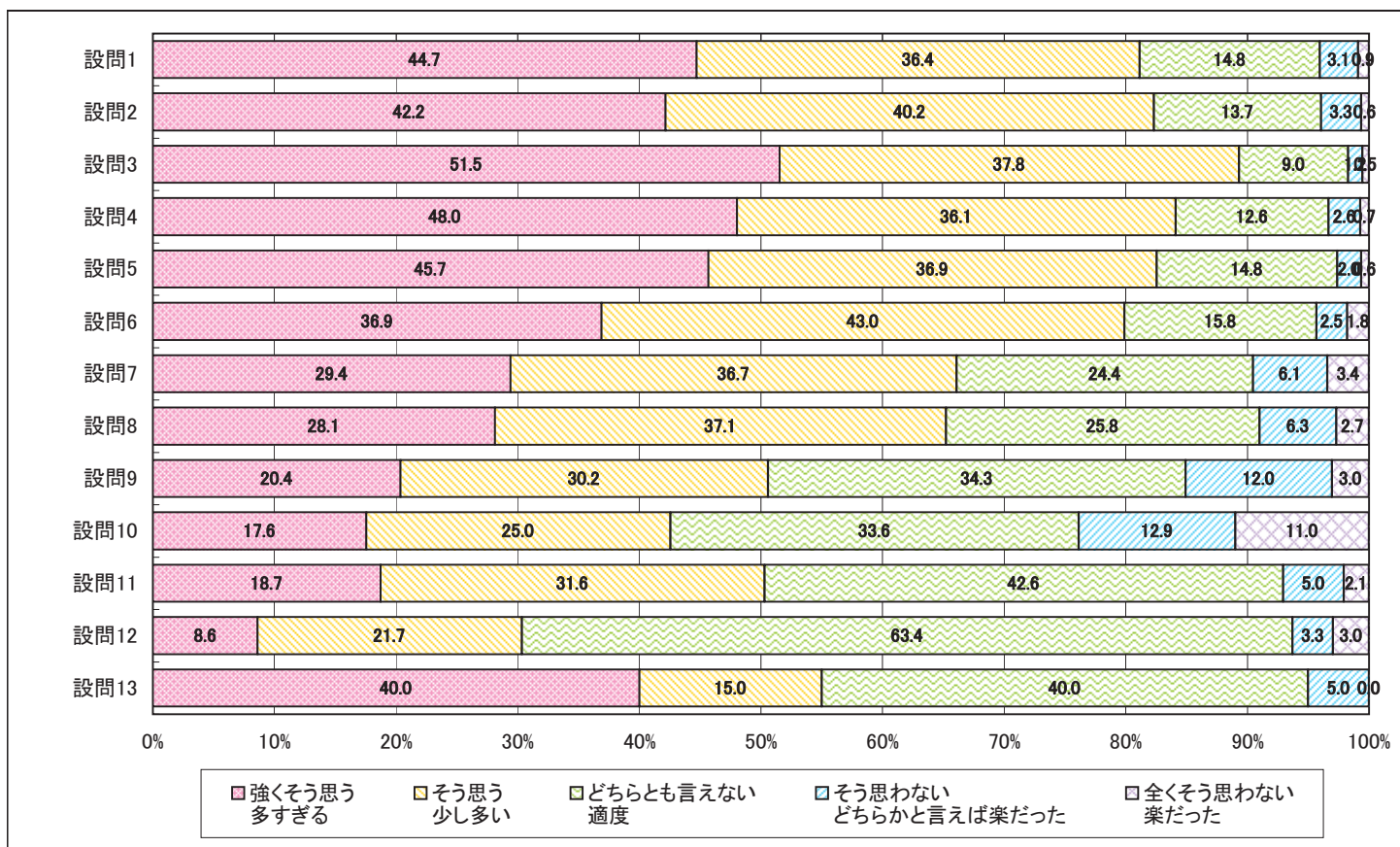
回答数	学年				既修者・未修者		出身学部	
	1年	2年	3年	他学部・研究科	既修者	未修者	法学部 (法律学専攻)	その他
1,115	175	383	527	4	480	595	843	225

設問内容	強く そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そう 思わない	全くそう 思わない	有効 回答数	全科目 平均値
	設問1 授業内容は、シラバスどおりに進行了ましたか。	498 44.7%	406 36.4%	165 14.8%	35 3.1%		
設問2 教員は、学生の理解度を確認しながら授業を進める工夫をしていましたか。	470 42.2%	448 40.2%	153 13.7%	37 3.3%	7 0.6%	1,115	4.2
設問3 教員は、十分に準備をして授業に臨んでいましたか。	574 51.5%	421 37.8%	100 9.0%	13 1.2%	6 0.5%	1,114	4.4
設問4 教員は、双方向、多方向授業の工夫をしていましたか。	535 48.0%	402 36.1%	140 12.6%	29 2.6%	8 0.7%	1,114	4.3
設問5 教員は、履修者の質問に的確に答えていましたか。	508 45.7%	410 36.9%	165 14.8%	22 2.0%	7 0.6%	1,112	4.3
設問6 あなたは、この授業によって法的知識や法的思考力(分析力や批判力)が増大しましたか。	411 36.9%	479 43.0%	176 15.8%	28 2.5%	20 1.8%	1,114	4.1
設問7 あなたは、この授業でわからないところがあれば質問をしましたか。	327 29.4%	408 36.7%	271 24.4%	68 6.1%	38 3.4%	1,112	3.8
設問8 あなたは、この授業を受けるに当たって十分に予習をしましたか。	313 28.1%	413 37.1%	287 25.8%	70 6.3%	30 2.7%	1,113	3.8
設問9 あなたは、この授業を受けるに当たって十分に復習をしましたか。	227 20.4%	337 30.2%	383 34.3%	134 12.0%	34 3.0%	1,115	3.5
設問10 授業以外に学生同士で予・復習の討議をしましたか。	195 17.6%	278 25.0%	373 33.6%	143 12.9%	122 11.0%	1,111	3.3
設問11 あなたは、シラバスで求められた到達目標に達しましたか。	207 18.7%	349 31.6%	471 42.6%	55 5.0%	23 2.1%	1,105	3.6
設問12 授業で求められる予習の量は感じましたか。	93 8.6%	235 21.7%	685 63.4%	36 3.3%	32 3.0%	1,081	
設問13 追加設問	8 40.0%	3 15.0%	8 40.0%	1 5.0%	0 0.0%	20	

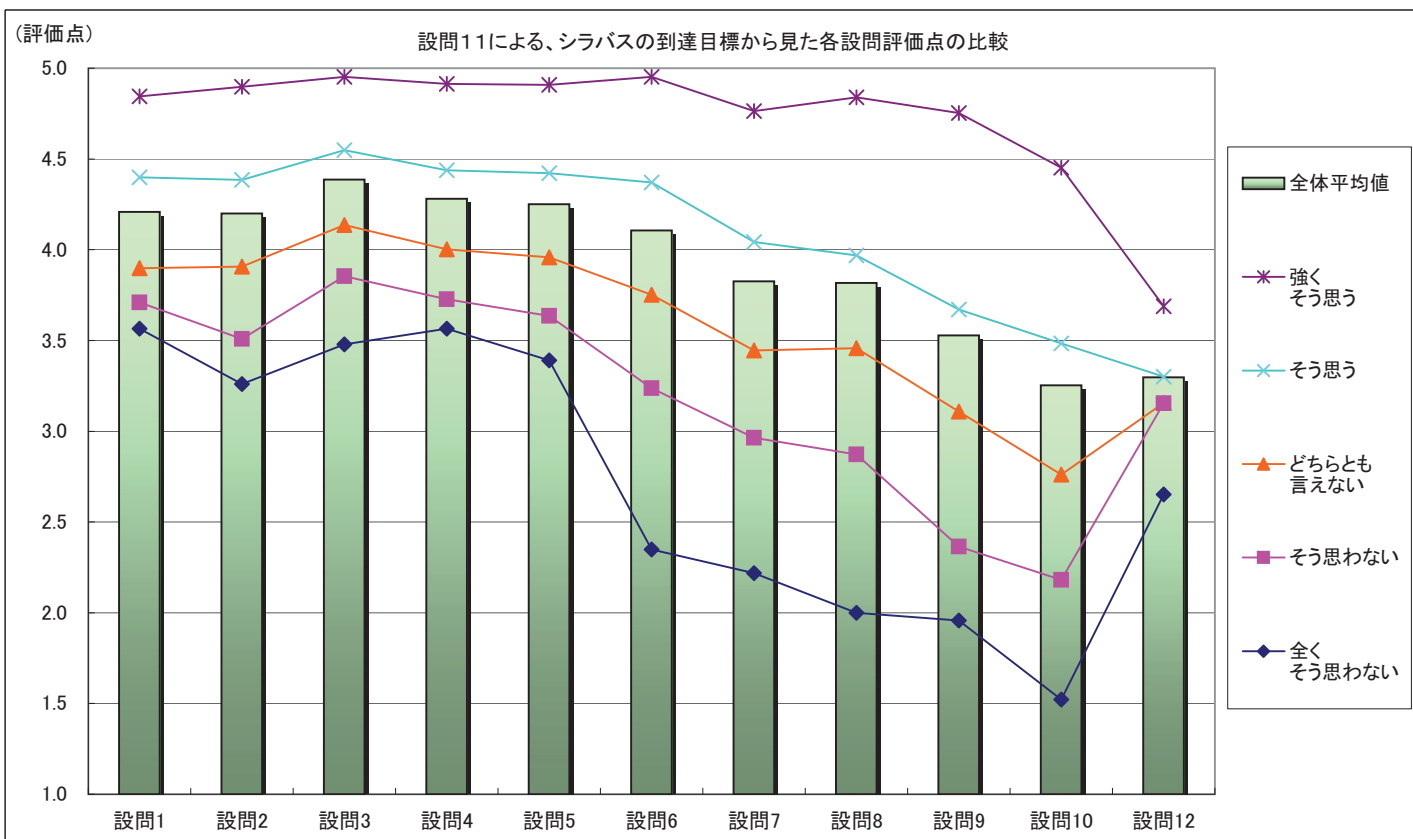
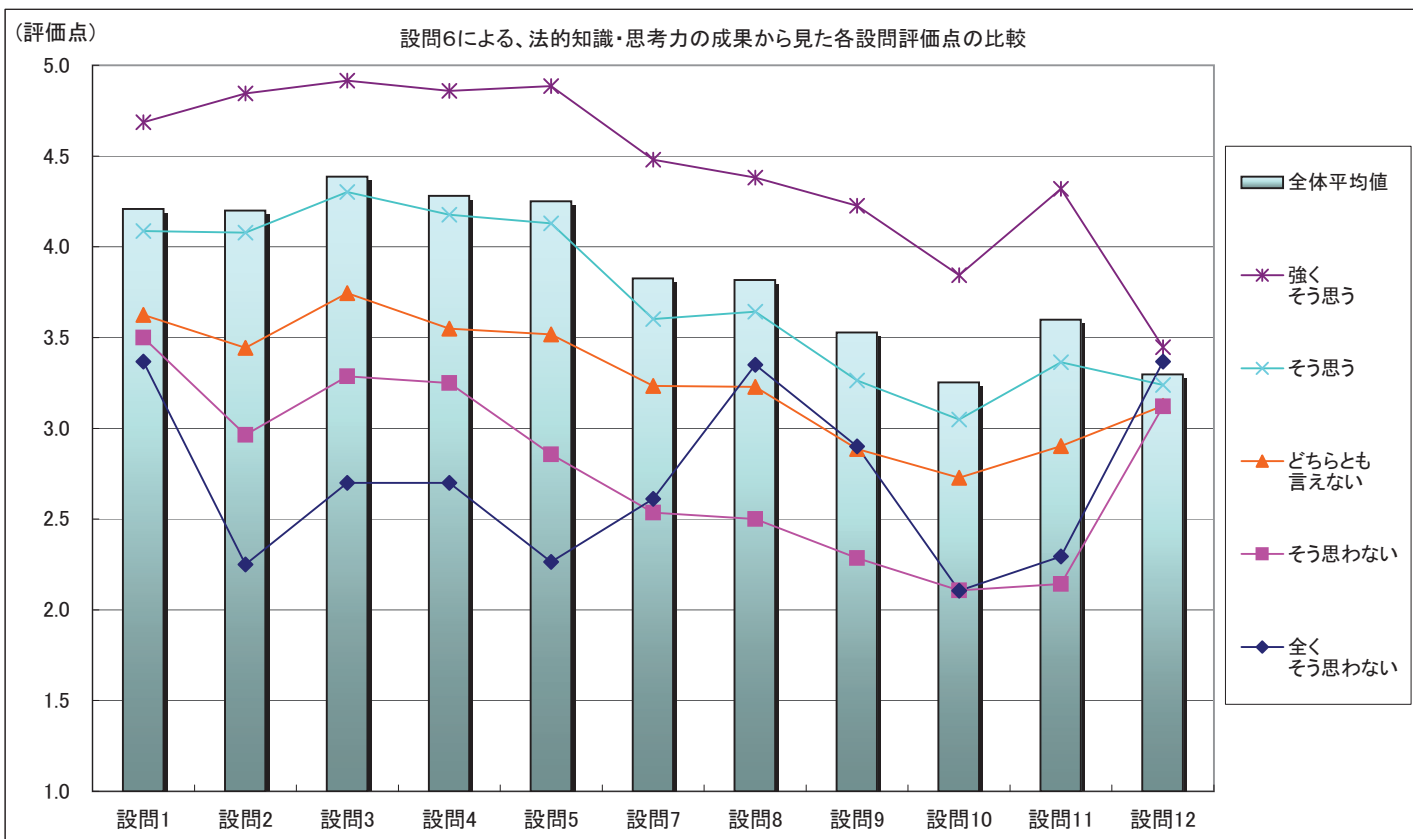
(上段：度数、下段：比率)

**(平均値の見方)**

平均値は、評価の値で計算しています。評価の値は、  
 強くそう思う：評価5、そう思う：評価4、どちらとも言えない：評価3、そう思わない：評価2、全くそう思わない：評価1、となります。



## 授業に関するアンケート全体集計結果 (評価点比較)



設問内容	全体	法律基本 科目(1年)	法律基本 科目(2年)	法律基本 科目(3年)	実務基礎 科目	基礎法学・ 隣接科目	展開先端 科目	特別演習 科目
設問1 授業内容は、シラバスどおりに進行了か。	4.2	3.7	4.0	4.6	4.4	4.2	4.3	4.5
設問2 教員は、学生の理解度を確認しながら授業を進める工夫をしていましたか。	4.2	4.0	4.0	4.4	4.5	4.0	4.1	4.7
設問3 教員は、十分に準備をして授業に臨んでいましたか。	4.4	4.2	4.2	4.6	4.6	4.5	4.4	4.7
設問4 教員は、双方向、多方向授業の工夫をしていましたか。	4.3	4.1	4.2	4.6	4.5	3.8	4.2	4.7
設問5 教員は、履修者の質問に的確に答えていましたか。	4.3	4.1	4.0	4.5	4.5	4.2	4.2	4.8
設問6 あなたは、この授業によって法的知識や法的思考力(分析力や批判力)が増大しましたか。	4.1	3.8	3.9	4.3	4.4	3.9	4.1	4.6
設問7 あなたは、この授業でわからないところがあれば質問をしましたか。	3.8	3.6	3.7	4.1	4.0	3.8	3.7	4.4
設問8 あなたは、この授業を受けるに当たって十分に予習をしましたか。	3.8	3.7	3.9	4.2	4.0	3.3	3.5	4.1
設問9 あなたは、この授業を受けるに当たって十分に復習をしましたか。	3.5	3.4	3.4	3.8	3.7	3.3	3.4	3.9
設問10 授業以外に学生同士で予・復習の討議をしましたか。	3.3	2.9	3.2	3.5	3.6	2.9	3.1	3.7
設問11 あなたは、シラバスで求められた到達目標に達しましたか。	3.6	3.2	3.4	3.8	3.8	3.6	3.6	4.0
設問12 授業で求められる予習の量はどうか感じましたか。	3.3	3.3	3.4	3.5	3.5	2.8	3.0	3.2
(参考)有効回答数	1,115	138	266	169	166	62	258	56

授業評価アンケート全体評価値の経年推移一覧

設問	2004		2005		2006		2007		2008		2009		2010		2011		2012	
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
設問1	4.0	4.2	4.2	4.2	4.1	4.2	4.0	4.0	4.0	4.2	4.1	4.1	4.2	4.2	4.1	4.3	4.0	4.2
設問2	3.9	4.2	4.0	4.2	4.0	4.2	4.0	4.1	3.9	4.1	4.0	4.1	4.0	4.1	4.0	4.1	4.0	4.2
設問3	4.3	4.5	4.3	4.4	4.2	4.4	4.2	4.2	4.2	4.3	4.2	4.3	4.2	4.3	4.2	4.3	4.3	4.4
設問4	-	-	4.0	4.2	3.9	4.1	3.9	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1	4.0	4.1	4.1	4.2	4.2	4.3
設問5	-	-	4.0	4.2	4.0	4.1	4.0	4.0	3.9	4.1	4.0	4.1	4.0	4.1	4.0	4.1	4.2	4.3
設問6	3.8	4.0	3.9	4.1	3.9	4.1	3.9	4.0	3.9	4.1	4.0	4.1	4.0	4.1	4.0	4.1	4.0	4.1
設問7	3.6	3.7	3.5	3.7	3.5	3.7	3.5	3.7	3.6	3.7	3.6	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.8
設問8									3.6	3.7	3.6	3.7	3.4	3.6	3.6	3.7	3.7	3.8
設問9	3.7	3.8	3.5	3.7	3.6	3.7	3.4	3.6	3.2	3.5	3.2	3.4	3.2	3.3	3.3	3.5	3.4	3.5
設問10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.1	3.3
設問11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.4	3.6
設問12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.2	3.3

注1)2005年度に設問の順序・内容がかなり変更されて、現行の設問1および設問3～9となっている。

そこで、経年推移の比較がしやすいよう、2004年度の欄には現行の設問内容に対応する2004年度の設問についての評価値を記入した。

注2)設問2は2004年度～2007年度と2008年度以降で下記のとおり設問内容が変わったが、便宜上両者ともに設問2の欄に並べて記入した。

注3)2004年度～2007年度には「あなたは、この授業を受けるに当たって十分に予習と復習をしましたか。」という設問を行っていたが、2008年度より設問8「あなたは、この授業を受けるに当たって十分に予習をしましたか。」と設問9「あなたは、この授業を受けるに当たって十分に復習をしましたか。」に分けたため、推移はそれに対応させて、2004年度～2007年度については設問8と設問9を合体させた欄にこの設問の評価値を記入した。

注4)2012年度に設問の内容を変更している。2004年度～2011年度の「教員の説明は、わかりやすかったですか。」「あなたは、この授業は履修者にとって満足できるものであったと思いますか。」の設問を削除し、設問10「授業以外に学生同士で予・復習の討議をしましたか。」、設問11「あなたは、シラバスで求められた到達目標に達しましたか。」、設問12「授業で求められる予習の量はどうか感じましたか。」という新たな設問を設けた。これらに伴う設問順序の変更はすべて2012年度の設問番号に対応させている。

設問内容

設問1	授業内容は、シラバスどおりに進行了か。
設問2	教員は、学生の理解度を確認しながら授業を進める工夫をしていましたか。 (2004～2007年度)板書やプリント、OHP、ビデオ等の補助資料は、授業の理解に役立ちましたか。
設問3	教員は、十分に準備をして授業に臨んでいましたか。
設問4	教員は、双方向、多方向授業の工夫をしていましたか。
設問5	教員は、履修者の質問に的確に答えていましたか。
設問6	あなたは、この授業によって法的知識や法的思考力(分析力や批判力)が増大しましたか。
設問7	あなたは、この授業でわからないところがあれば質問をしましたか。
設問8	あなたは、この授業を受けるに当たって十分に予習をしましたか。
設問9	あなたは、この授業を受けるに当たって十分に復習をしましたか。
設問10	授業以外に学生同士で予・復習の討議をしましたか。
設問11	あなたは、シラバスで求められた到達目標に達しましたか。
設問12	授業で求められる予習の量はどうか感じましたか。





<アンケート授業別集計結果(サンプル)>



# 授業に関するアンケート授業別集計結果

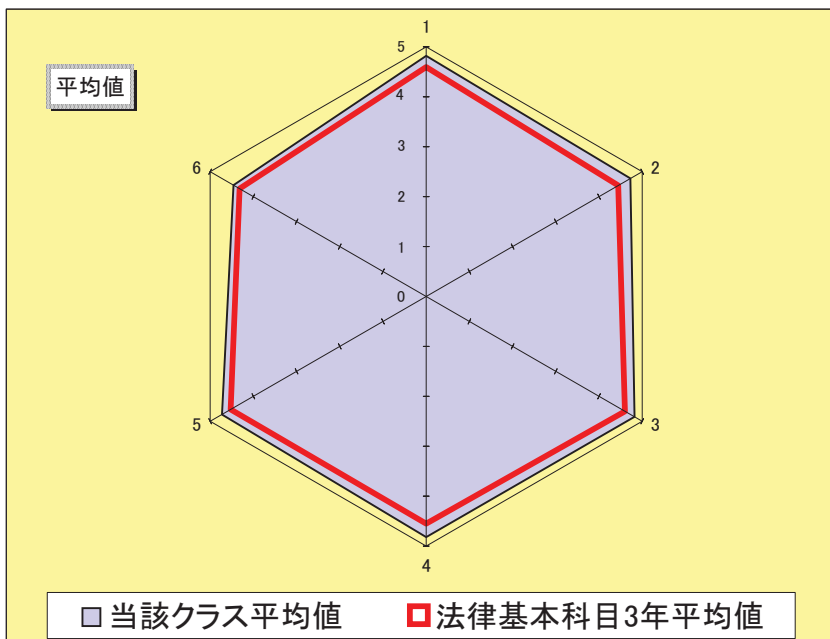
## 2012年度秋学期

授業番号 :  
 科目 :  
 クラス、曜日・時限 :  
 担当者 :  
 履修者数 : 12

回答数	学年				既修者・未修者		出身学部	
	1年	2年	3年	他学部・研究科	既修者	未修者	法学部 (法律学専攻)	その他
11	0	0	11	0	10	1	10	1

	設問内容	強く そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そう 思わない	全くそう 思わない	有効 回答数	当該クラス 平均値	法律基本 科目3年 平均値	当該科目 平均値
		設問1	授業内容は、シラバスどおりに進んできましたか。	9 81.8%	2 18.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11	4.8
設問2	教員は、学生の理解度を確認しながら授業を進める工夫をしていましたか。	8 72.7%	3 27.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11	4.7	4.4	4.3
設問3	教員は、十分に準備をして授業に臨んでいましたか。	9 81.8%	2 18.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11	4.8	4.6	4.5
設問4	教員は、双方向、多方向授業の工夫をしていましたか。	9 81.8%	2 18.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11	4.8	4.6	4.4
設問5	教員は、履修者の質問に的確に答えていましたか。	8 72.7%	3 27.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11	4.7	4.5	4.4
設問6	あなたは、この授業によって法的知識や法的思考力(分析力や批判力)が増大しましたか。	6 54.5%	4 36.4%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	11	4.5	4.3	4.2
設問7	あなたは、この授業でわからないところがあれば質問をしましたか。	5 45.5%	6 54.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11	4.5	4.1	4.1
設問8	あなたは、この授業を受けるに当たって十分に予習をしましたか。	5 45.5%	6 54.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11	4.5	4.2	4.2
設問9	あなたは、この授業を受けるに当たって十分に復習をしましたか。	4 36.4%	3 27.3%	4 36.4%	0 0.0%	0 0.0%	11	4.0	3.8	3.5
設問10	授業以外に学生同士で予・復習の討議をしましたか。	3 27.3%	5 45.5%	3 27.3%	0 0.0%	0 0.0%	11	4.0	3.5	3.5
設問11	あなたは、シラバスで求められた到達目標に達しましたか。	3 27.3%	7 63.6%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	11	4.2	3.8	3.9
設問12	授業で求められる予習の量は感じましたか。	1 10.0%	5 50.0%	4 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	10			
設問13	追加設問	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0			

(上段：度数、下段：比率)



### 平均値の見方

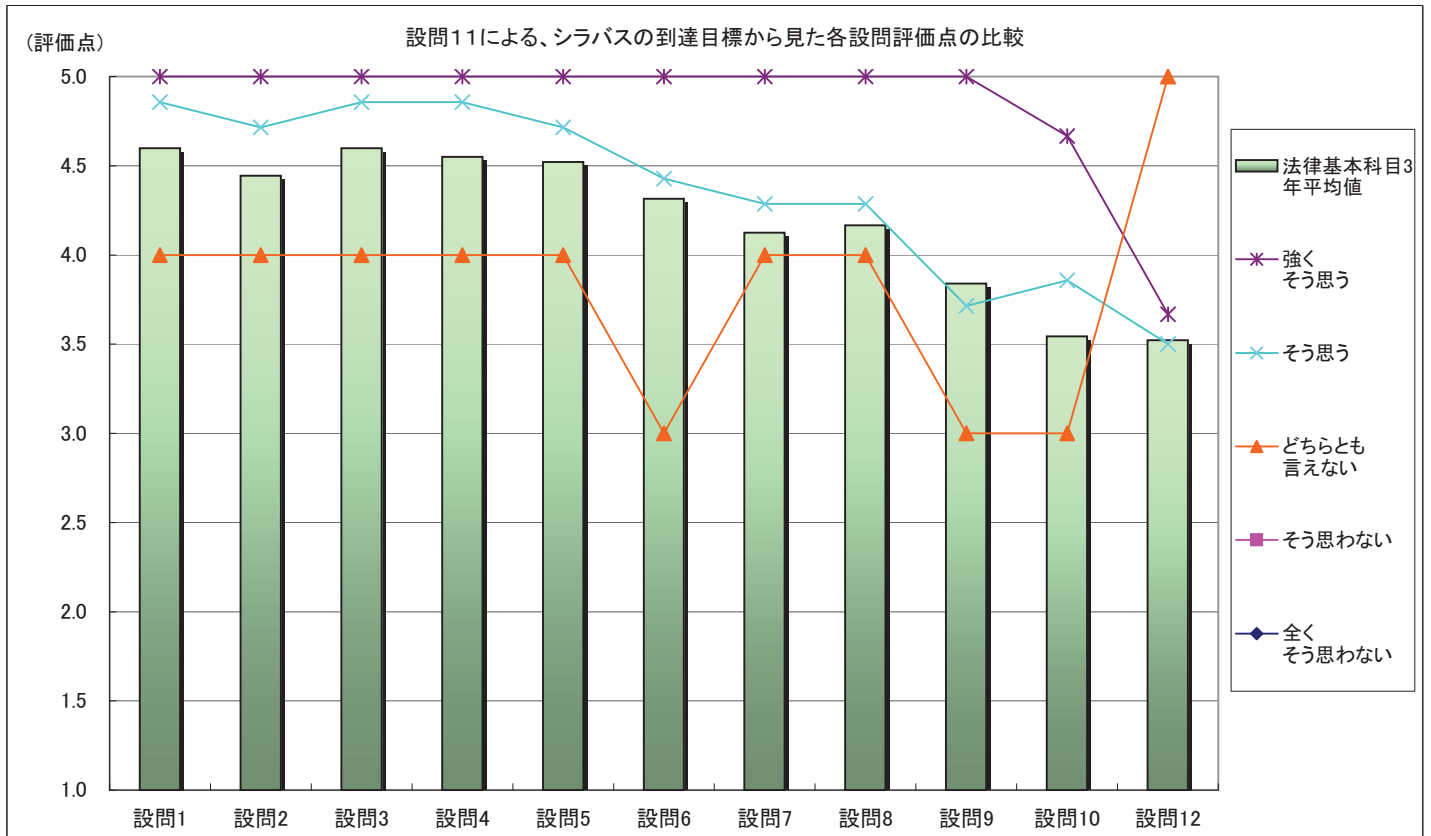
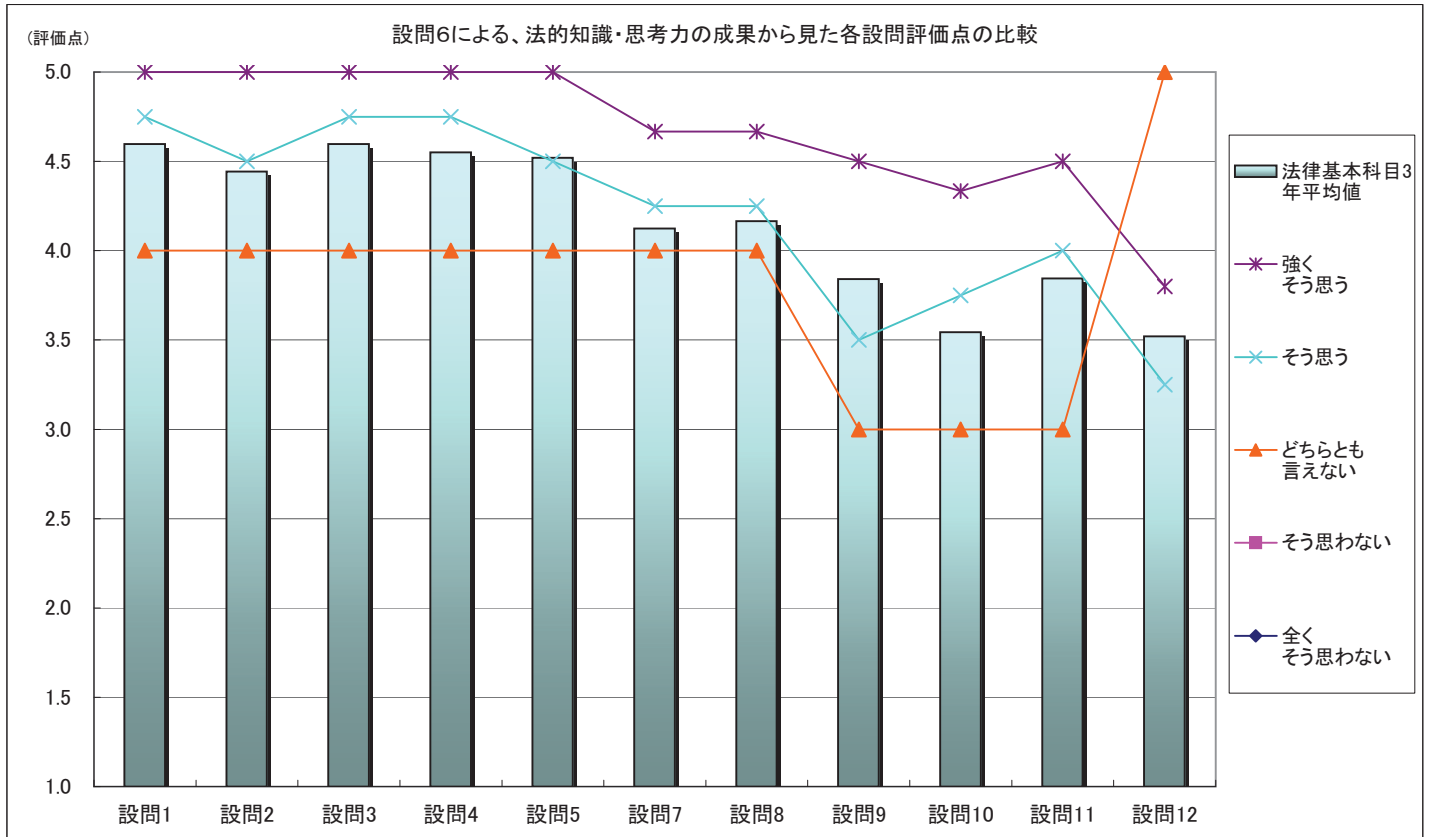
平均値は、評価の値で計算しています。評価の値は、

- 強くそう思う       : 評価 5
- そう思う            : 評価 4
- どちらとも言えない : 評価 3
- そう思わない       : 評価 2
- 全くそう思わない   : 評価 1

となります。

## 授業に関するアンケート授業別集計結果 (評価点比較)

授業番号 :  
 科目 :  
 クラス、曜日・時限 :  
 担当者 :  
 履修者数 : 12



# ロースクール教員の担当科目自己評価表

教員氏名：

担当科目名：

これは、ロースクール教員が2012年度秋学期に担当したご自身の科目について、ふりかえってその評価を行うものです。  
 (1) (2) (3)については該当する番号欄に○印を、(4)については自由にご記入ください。  
 なお、この自己評価は、学生による授業評価とあわせてロースクールの教員と学生を対象に公表します。

設問内容		強く そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そう 思わない	全くそう 思わない
		5	4	3	2	1
<b>(1) 担当した授業について</b>						
設問1	授業を、シラバスで示された主題や目的に十分に沿っておこなったと思いますか。			○		
設問2	学生の授業理解度を確認しながら授業を進める工夫をしたと思いますか。		○			
設問3	授業には、十分に準備をして臨んだと思いますか。		○			
設問4	双方向、多方向授業の工夫をしたと思いますか。			○		
設問5	授業では、わかりやすい説明をしたと思いますか。	○				
設問6	履修者の質問には、的確に応えたと思いますか。		○			
設問7	授業によって、履修者の法的知識や法的思考力（分析力や批判力）が増大したと思いますか。		○			
設問8	授業は、履修者にとって満足できるものであったと思いますか。		○			
<b>(2) 履修者自身の授業に臨む態度について</b>						
設問9	履修者は、授業でわからないところがあれば質問をしていたと思いますか。			○		
設問10	履修者は、授業を受けるに当たって十分に予習をしていたと思いますか。			○		
設問11	履修者は、授業を受けるに当たって十分に復習をしていたと思いますか。			○		
<b>(3) 授業レベル・規模について</b>						
設問12	授業で求める予習の量を履修者がどう感じていたと思いますか。	多すぎる	少し多い	適度	どちらかと言え ば楽だった	楽だった
				○		
設問13	履修者にとって、1クラスあたりの履修者数は適切であったと思いますか。	多い	やや多い	適切	やや少ない	少ない
				○		
<b>(4) 記述評価項目</b>						
a) 授業で最も力を入れたことは何ですか。具体的にお書きください。 基本的な概念や制度は、それに関連する時事的問題を出すようにし、また意識的に繰り返し説明するようして、学生の理解をより確実なものにするように心がけた。						
b) 授業を担当するにあたって、今後、改善ないし工夫した方がよいと考えている点があればお書きください。 (今年度は)学生の理解度を見ながら講義を進めたこともあり、予定通りには進まず、例年になく補習の必要が生じたことから、授業で取り上げる項目・内容を精査するつもりです。						
c) 授業に関して、ほかに気づいたところがあればお書きください。 とくになし。						

## 2012年度秋学期 授業評価結果に対するコメント

教員氏名：

担当科目名：

### 1. 学生の評価に対するコメント

過半数の受講生から、比較的高い評価をいただき、感謝していますが、低い評価をされた受講生もそれなりにいますので、他のクラスの担当者とも相談しながら、指摘された問題点を十分に検討させていただいたうえ、それを踏まえて、新年度に向けてさらなる改善をしていきたいと思っています。

### 2. 今後の改善点などについて

関連する質問事項をもう少し整理し、また基本的な知識の確認にもう少し時間を割けるような授業内容となるよう、工夫してみたいと考えています。

### 3. その他

ただ、基本的な知識は、一応1年生で（あるいは入学前に）修得済みであり、その正確な知識の定着はあくまで受講生自身の努力と工夫で身に付けていただくことが重要です。とはいえ、それが不十分な状態で授業を進めても効果がありませんので、実際は、それとの兼ね合いは難しいところですが、2年生での演習は、基礎知識の確認を入れながらも、あくまでその応用として活用していただけるよう、私自身もさらなる努力と工夫を重ねてゆきたいと思っています。

2012年度秋学期授業評価報告書

---

2013年6月1日

編集 2012年度関西学院大学大学院司法研究科自己評価・FD委員会

発行 関西学院大学大学院司法研究科

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155

---

関西学院大学大学院司法研究科

(ロースクール)

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155

TEL : 0798-54-6339 FAX : 0798-54-6395